

O.S.P



VOL. 4
FEBRUARY

[OSPREY]

S

[SPIRITUAL]

P

[PERFORMER]

無料
ご自由にお取りください

Keep it on the down low!!

—並木敏成が語る
あのルアーの真実—
阿修羅O.S.P VARUNA110SP



O.S.P
動画
随時更新!!

Journal

待望の
110mmサイズ
ミノーが登場!!



VARUNA

O.S.Pが誇る
三人のスペシャリストが“旬”を説く!
三人の賢者はこう釣る!!
折金一樹 / 辻井伸之 / 宮本洋平

O.S.Pクロニクル
完全フラットサイドボディに
秘められた秘密を明かす...
HPF CRANK

O.S.Pが誇る凄腕プロスタッフが解説する
“絶対釣果”を確約するルアーの使い方。
これさえ読めば、今日からアナタもGo-Getter!!

ダンク48
& パワーダンク57
の使い方

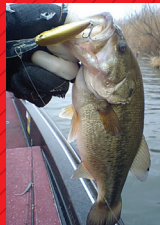


最適な シチュエーション

ズバリ、ブレイクラインや沖の沈みもの
といった水深のあるエリア。加えて、橋脚
や消波ブロック帯もいいですね！ 冬寄り
の魚を狙うということで、おのずとこのよ
うなエリアがメインになってきます。



使い方はただ巻きとボン
ブリトリップによるストッ
プ&ゴーが基本になります。
重要なのはバスのヤル気に
合わせたスピードで引くこ
と。また、スロリトリ
ップではバスが直後を追尾し
ているケースがけっこう多
く、ビックアップ寸前まで
気を抜かず、ワントウイッ
チ入れするのも有効です。



出番となるシーズン

ダンク48&パワー
ダンク57は狙えるレ
ンジの幅が広く、オ
ールシーズン活躍す
るルアーですが、シ
ヤッドシエイブなが
らもマッテイで効く
タイトアクションは
比較的、低水温期に
強いですね。具体的
な季節でいえば、冬
11月中頃〜春先3月
くらいまでの使用頻
度が多いです。

ダンク48と パワーダンク57の使い分け

まず、優先すべき点としてボトムタッチを考えています。できる
だけ長くボトムを的確にタッチできるのはパワーダンク57。水深
4mほどの消波ブロック帯の中層でバイトが多いときに使用し、対
してダンク48は水深2~3m程度のブレイク、沈みものでチョイス
します。また、低水温に伴い水質がかなりクリアになることもある
ため水の色と相談しながらサイズの、もしくはカラーによるアピ
ールとシルエットを調整して使い分けています。



基本的な使い方

ミテートしたボトムノックの際に出る、煙幕とも言える泥煙がザリガニ
に執着したバスに対してアクション以上のアピールとなり、ときにテキ
サスリグやラバージグを上回る効果を産むのです。SPを使う理由は、消
えかけた煙幕からダンク48やパワーダンク57のシルエットが浮かび上
がってくる様が、まさにザリガニのイメージにぴったりで、その場にス
テイしていることが前提となるからです。比較的浅いカバマわりを狙
うため、ボトムまでのランニングロスも少ないに越したことはなく、水
深が1m未満であってもダンク48やパワーダンク57が有効となります。

ちょうど冬の入り口となる11月下旬はザリガ
ニの越冬シーズンと重なります。そんなシャロ
ーに上がってくるザリガニを楽しみにしている
バスに、パワーダンク57およびダンク48のSP
タイプがハマ
ることがあり
ます。これは
ザリガニをイ



もう一匹を可能にするためのシークレットテク!

PRE
SENT
!!!!

セットで
1名様に!!

O.S.P.
ワークキャップモデル2
(ジャガードカモ)



O.S.P.
ジップアップ
ジャケット
(グレー=サイズL)

応募方法_希望者はメールにて、件名「O.S.P JOURNAL プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

- このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- このパンフレットの率直な感想
- このパンフレットに求める情報
- 釣り歴とホームグラウンド
- O.S.Pで好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。
締切は2015年3月5日。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

event@o-s-p.net

個人情報について_ご提供いただきました個人情報は厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。
また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません(法令等により開示を求められた場合を除く)

毎日更新! O.S.Pのすべてがわかる!!
O.S.P公式ホームページ

www.o-s-p.net

O.S.P Lurefishing Facebookページ
http://on.fb.me/1ivloty

並木敏成の知られざる素顔が明らかに...!?
並木敏成オフィシャルサイト「THIS IS T.NAMIKI」
http://t-namiki.net/

並木敏成Official Site「THIS IS T.namiki」
更新情報 Facebookページ

http://on.fb.me/1iE8UiY



折金一樹 @千葉県・亀山湖

オーバーライド
(アイスシャッド)

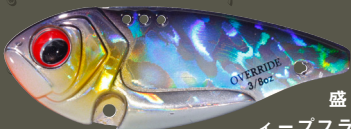
生命反応があればチャンス



2月は最低水温に達する厳寒期。バスが捕食行動に出るのは、極々わずかな時間です。

フィネスのような食わせもありですが、一日を通して狙えるリア

クションに特化した釣りが、結果的に得策。そしてリザーバーのディープでリアクションという、出番になるのがオーバーライドです。



お正月くらいまでは盛んにディープフラットで

捕食していた個体も越冬状態に入り、動かないバスが多いことから、狙いはレンジを絞った使い方が主となります。キーになるレンジは湖全体や各エリアの中で、ベイトフィッシュなど何らかの生命反応のある範囲。具体的にはオダや立ち木、急深なバンク沿いなどの越冬エリアが挙げられます。

使い方は10m弱キャストして、軽くテンションを掛けながらフォール。着底後は軽くブルブルが感じ取れる程度でゆっくりと、50〜70cmほどリフト。そしてお得意のスライドフォール。この繰り返しです。

あたりはよく言われるようにフォール中で、次のリフトでフッキングします。注意したいのはあたりと根掛かりの違い。これはズバリ、ゆっくり動くと動かないか!! にあります。またその根掛かりですが、明らかに硬いものであるなら、強引に引っ張らないで軽くゆすると簡単に外せます。カラーは厳寒期でクリア気味なことが多いので、アイスシャッドと寒鰯がおススメですね。

辻井伸之 @和歌山県・合川貯水池

阿修羅O.S.P SPEC2 925SF
(アイスシャッド)

冬バス春バスの両方に対応



合川貯水池の2月は最低水温期から一雨ごとに春へと向かう季節で、水面下の状況が冬なのか春なのかを日ごとに見極める必要があります。

そこでまず私がキャストするのが、冬バス&春バス双方に対応できる阿修羅O.S.P SPEC2です。

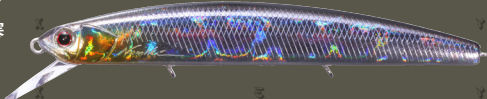
固定重心なので着水直後からまさに臨戦態勢! ごまかしの利かない厳しい時期だけに、意のままにルアーを操れるコントロール性能は何よりも大切なのです。

季節の進行とともに釣れるエリアもどんどん広がるのですが、まだまだ水温は低いため、ポーズを入れながらのスローテンポなジャッキングでバスの出どころを探っていきます。

春めいてきたと言ってもまだまだ寒い2月。出足の鈍いバスに対して3フックの阿修羅O.S.P SPEC2はショートバイト対策に大きく貢献してくれます。

カラーは薄曇りな天候が多く光量の少ない時期なのでフラッシング系のカラーをチョイス。アイスシャッドを基本カラーとし、濁りが入ると黒金オレンジベリを使うことが多いですね。

阿修羅O.S.P SPEC2より、春めいた強いバイトが得られるようになってくるとフローティングタイプの阿修羅O.S.Pが有効になってきます。こちらは春一番が吹いたあとを目安に、SPEC2と併せてフィーディングフラットで試してみてください!



宮本洋平 @広島県・弥栄湖

ハイピッチャーTW・1/2oz
(C.B.チャートブルーバック)

ボトム近くをスローリトリーブ



2月は最もバスが釣りにくい季節です。なのでルアーをじっくり動かして釣るより、広範囲をまわって釣れるバスを探すのが有効な手段です。

タフコンディションでボクが多投するのが、ハイピッチャー TW 1/2oz (C.B.チャートブルーバック) です。この時期、水温が上がりにくいのは水通しが悪く、ハイシーズンならばバスする3級のエリアで、水質も濁っています。しかしクリアなリザーバーにおいて、バスが最初に差してくるのはこういう場所です。

使い方としては、岸と平行に水深0.5〜3mのボトム近くをスローリトリーブで引いてきます。キャスト後にフォールして、ハイピッチャーのブレードがちょうど見えなくなるくらいの水深以上が目安です。

ずっとボトムを引くと根掛かりが多発してしまいますので、スタンプや岩にたまに当たるくらいのレンジをキープ。ちょうどバスがそこにも、周辺にいるやる気があがるバスを引っ張ってくるイメージです。

この時期、バイトは非常に短く甘噛みが多いので、トレーラーフックは必須! バスがシャローに上がってくるタイミングも重要ですので、有望なエリアは時間を空けて何度も入り直してみてください。



「今」最も効果的な釣り。

三人のローカルが見据える

あなたなら、どうする? どうしてる?

釣りに行くための〇〇

【バスが求めているもの、嫁さんが求めているもの】

——プロスタッフ坂本洋司さんの場合

人から「釣りがばかり行って、奥さん、何も言わないの?」とか聞かれますが、正直そりゃ〜、いろいろ嫌味を言われますよ…

そこで私の場合は週末集中型というか、平日は釣りから遠退いた毎日を過ごしています。「自分でできることは自分でする」をモットーに、具体的にいうと私は工場勤務なのでドロドロの作業服は帰宅後すぐに自分で洗濯機を回し

ます。さらに風呂の準備、娘の習い事の送り迎え、嫁さんの買い物のお使いなどなど……

少しでも嫁さんへの負担を少なくしてあげようと、いろいろ気を遣っているんです(嫁さんはどう思っているかわかりませんが…)。

要是平日にしっかり徳を積んで週末は釣りに集中させてもらう、という魂胆ですね。

私は本気でトーナメントを楽しんでいるので、

成績で嫁さんにその本気度合いを理解してもらおうとがんばっている、という面もあります。

釣りに行けるのも家族の理解があつてのことです。週末は「バスって何を求めているのか?」を考えますが、平日には「嫁さんが何を求めているのか?」を私は考えています……



全国のお父さんアングラ様。釣りに行きたくても、自由に行くこと、**かないませんよ**ね?それは**釣り業界人**とて同じ。だから釣りに行く前には必ず、**こんなこと**、しているのです……

KEEP IT ON THE DOWN LOW!!

これは、ここだけの秘密と、いうことで…

Special Issue

[テーマ]

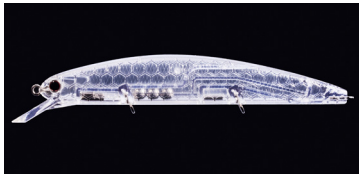
11cmクラスのミノーのラインブッキングを待ちわびたアングラーも釣りのでは...?



阿修羅O.S.P VARUNA 110SP

阿修羅O.S.P 925が誕生して14年。ルドラ130は今年で10年目を迎える。ユーザーのみなさんはもちろん、自分たちもこれだけ長い間、この2つのミノーを使い込んできたので、11cmサイズのミノーを作るに際して、コンセプトはすぐに決めることができた。110mmというサイズは阿修羅O.S.P 925とルドラ130の中間にあたるが、どちらかといえば新たにリリースしたこのヴァルナは、ルドラのダウンサイジング版と考えてもらうといいだろう。

厳密に言うと113mmのボディを持つヴァルナだが、特徴はハニカムボディ (PAT.) を採用した、軽量ボディかつ低重心化を図った点。さらにフルフラット設計であることも、特記しておきたい。



この「フルフラット設計」だが、これはフラッシングと水押し効果を狙ってのもの。また、断面で見たときに、楕円よりも長方形のほうが面積が大きいという理論から、体積を稼げるというのもこの形状にした理由だ。これは阿修羅O.S.P 925やルドラ130を使い込んできたアングラーなら、すぐにおわかりいただける点でもあるだろう。



加えて、腹側を平らにしたことで、板状のウエイトを底面にべったり這わせるように設置することができる。これが低重心化に役買っている部分ではあるのだが、もしボディが一般的なミノーのようにラウンド形状になっていると、板状のウエイトは浮いた状態で配置することになってしまう。空気抵抗を抑え、かつ強い水押しとフラッシングを生むこのボディは、後述する重心移動ウエイトもあいまって、他を圧倒する飛距離を生むことは言うまでもない。

3連の小径タングステンウエイトによる重心移動システムが生み出したもの

もうひとつ、特筆したいのは重心移動システムだ。径が小さな3つのタングステンウエイトを入れたことで、大きいウエイトを入れるよりも低重心にすることができ、ただ巻き時のアクションレスポンス、特にハイレベルなロールアクションに貢献。トゥイッチでの使用においては、仮に1つの球がボディ後方に移動しても、3つ同時に移動することはほぼない。1つだけ後方に移動した場合でも、2つが前方に残ってくれているので、ヘッドを上げすぎて水面を飛び出す心配がなく、すぐに立て直してくれる。実はこのシステムはルドラ130ですでに採用



されており、当時、3つの球を使っている重心移動はルドラ130をおいてほかに見当たらなかった。今でこそ、ルドラと同様の重心移動システムを採用しているミノーは見かけるが、この3連のタングステンウエイトによる重心移動の搭載が、これまでの11cmミノーのレベルを大きく上回るただ巻き性能やダート性能を見せてくれている。

マグネット式重心移動よりも3連タングステン重心移動が勝る点

今の時代、マグネットを使用した重心移動システムもあるのだが、ヴァルナではあえて、それを使わなかった。というのも、これだと音がしないからだ。例えば琵琶湖や霞ヶ浦のような広大なフィールドにおいて、ルドラが他を圧倒する釣れ方をするのは、自分が思うに、フルフラットボディによるフラッシングや、他のジャークベイトよりも一段深いところを引けるといった理由に加えて「音」の存在もあると思う。これは多くのプロスタッフからも耳にした意見で、ジャークした際に、3つの球がボディ内に設置されたレールの段差に当たる。そこで発する音が強烈で、さらに音が出る瞬間、ボディ自体が「ブルン」と震えもする。また、ただ巻き時も3つのタングステンボールの球同士がぶつかり合う、もしくはボディ内部の壁に当たり、ここでも音を発する。しかしマグネット式だと球が固定されるため、そうはならない。このメリットをヴァルナにも採用したかったため、あえてマグネット式を使わなかったのだ。

しかし逆に、小規模なフィールドやクリアウォーターなどでは、音の存在がマイナスに作用することもある。そこで求められるのは中途半端に音が弱いルアーではなく、まったく音がしない完全なサイレント。O.S.Pではスペック2というバージョンをラインナップしており、これはヴァルナでも採用する予定なので、ぜひ使い分けてほしい。

ただ巻きでは2.17mの潜行を記録しかし連続ジャークすると意外な結果が...

ヴァルナをフロロ12lbでフルキャストし、ただ巻きで使用すると2.17mの潜行を記録した (平均値)。その際、これまでに自分が好きだった他社の3つのミノーと比較してみたのだが、そのどれもが2～2.2m前後の潜行深度であった。

ただ、おもしろいデータとして連続ジャークで使用したとき、先述した3つのミノーはただ巻きと比べると1.65～2.15mになるのに対し、ヴァルナは平均で2.80m潜る。あるミノーはただ巻きと同等か10cmぐらい浅くなる、あるミノーは30cm以上もレンジが浅くなるのに対して、だ。これは非常に興味深い。

普通、ジャークを強くすればするほど、ジャークベイトはバランスを崩して浮いてくる。狙っている層を通すことができな

いため、ロッドの高さでコントロールしたり、ただ巻きでレンジコントロールするのだが、ヴァルナではその必要がないといえる。ちょっと潜らせて使いたい。そんなときはポーズをとったあと、2～3回のトゥイッチを入れることで潜らせればいい。このように、レンジをどんどん変えることができるのも、ヴァルナのメリットである。

また、リザーバーのような急深なところや、シャローカバー、オーバーハンクなどヘビッチングでアプローチしたとき、潜らないジャークベイトでは表層付近でしか食わせられない。しかしヴァルナのように着水直後から潜行させることができる、いわば潜る力に余力があるジャークベイトであれば、ロッドの高さやジャークの強弱によって潜行深度をコントロールすることができる。加えて、



バスの目の前ではただ巻きで食わせたいなら、軽くトゥイッチして潜らせておき、狙いのレンジではただ巻き、という使い方も可能。

ここで、レンジが深いところでダートさせたいのなら、ロングリップを使えばいいという意見があるかもしれない。しかしロングリップはリップにかかる抵抗が大きいがゆえ、ジャークしたときに意図するダートが出ないとか、サカナを誘う動きが出せない。また、ウィード抜けも悪い。いかにショートリップの軽い力でダートしてくれて、しかも浮いてこないルアーが使いやすいのか。これは体感してもらえばわかると思うが、こうした点もヴァルナが釣れる理由のひとつではないだろうか。

これら特徴を最大限に活用するヴァルナの基本的なテクニック

使い方はフィールドのタイプや状況によってさまざま。しかし、幅広い使い方に対応するのもヴァルナの特徴である。

まず、ジャークベイトの基本となるトゥイッチ&ポーズという使い方。通常、2～3回のトゥイッチを入れてポーズさせるのだが、この回数は狙っているプロダクティブゾーンの幅によって決める。もし、プロダクティブゾーンが長い時は3回のトゥイッチで止める。これが浮きゴミの下や「この際でしか出ない!」というようなスポットでは、トゥイッチの数は少なくするといい。ヴァルナの場合、移動距離を抑えた首振りも細かいロッドワークで演出することができる。また、5cmぐらい引っ張るようにすると「ブルッ」とロールしてくれる。ドライブスティックのノーシンカーリグを落としたときの自発的なロールと同じような、極め

てナチュラルな弱いアクションでバスを誘ってくれる。

このとき、ボディ側面がキラッと見えるような動きを見せるのだが、これはバスを誘うと同時に、ルアーの位置を知るサインにもなる。水の色やボトムの色にルアーが溶け込んでいて見にくい場合は、こうして自分のルアーの位置を確認するといいたいだろう。

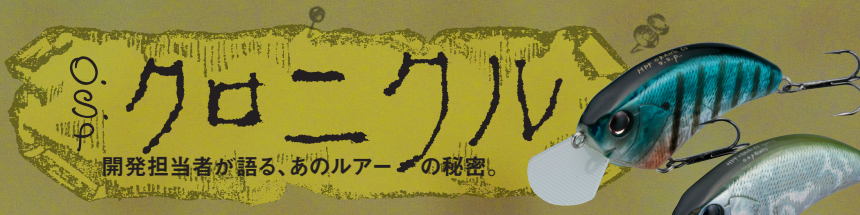
次にただ巻き性能のよさを活かした使い方として、ストップ&ゴーがある。琵琶湖や霞ヶ浦、北浦などの広大なフィールドを素早くサーチしたいとき、パイブレーションをただ投げて巻いてく

るかのよう、ヴァルナをキャスト&リトリブで使用する。当然、春先のような低水温期であれば、ポーズも必要。2～3m巻いて止めるという動作の繰り返して、リトリブスピードは低水温であればスローに。水温が高ければ速く巻くといい。

さらに特殊な使い方として、高速巻きがある。例えば夏場、流れ込みの下などのように、一点集中でバスがいるとする。そういったスポットには入れ替わり立ち代り人が入るため、一筋縄では攻略できず、朝イチに入った人だけが釣れることもしばしば。ノーシンカーなどのライトリグでも食わない、スレっからしの個体に対して、ヴァルナを高速巻きで通すのだ。ポイルが起きた直後などもこれは有効で、ペンシルでは見切って食わない。パイブレーションではシルエットが違いすぎる (こういった場所のバスはアユやハス、ウグイなど、細身で大きめのエサを捕食していることが多い)。そんなときこそ、ヴァルナの出番。これは130mmというボディながら、高速で巻いてもバタつかず、動きも大きすぎないルドラの特徴を継承している。

110mmという、このサイズのジャークベイトを待ちわびたアングラーは、決して少なくないだろう。ルドラを愛してくれた信者を裏切らないジャークベイト、ヴァルナ。ぜひ、あなたのスタメンに加えてほしい。





開発担当者が語る、あのルアーの秘密。

ウッド製フラットサイドクランクを超える。そのため、新たな機構をいくつも採用した。もちろん初めての試みが多い中で繰り返されたトライ&エラーと度重なるテストは想像に難くない熾烈を極めた……

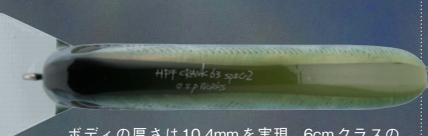
6cmクラスのフラットサイドで最薄のボディ幅を実現

ボディ側面がフラットで、その名の通り“フラットサイドクランク”と呼ばれるタイプは、アメリカではケンタッキー州やテネシー州などのクリアウォーターが多い地域で人気。ローカルブランドでもこの形状のクランクを出しているところが多く、似たような形状のバイブレーションプラグと違って潜りすぎず、ゆっくり引けることが支持される理由だ。さらにボディ側面のフラッシングによるアピールなど、フラットサイドクランクならではのメリットはほかにも多々あるが、日本ではそれほど使っているアングラーはいなかった。少なくともO.SPがフラットサイドクランクというカテゴリの開発に着手し、リリースするまでは……

2002年、HPFクランクの開発に着手。きっかけは、並木敏成がアメリカから持ち帰った、ひとつのフラットサイドクランクだった。当時、アメリカのメディア上で話題になる前に、現地のプロアングラーが水面下でこぞって使っていたという代物。ウッド製のこのフラットサイドを超えるものを、プラスチック製でリリースする。これが当面の目標であった。

「しかし、ウッド製クランクの中でも当たりと言われるモデルを超えるのは、簡単じゃないだろうなという予測はできました。リップに採用されていたベークライト、通称ベークと呼ばれる素材に関しても、当時は見たことがなく、泳ぎもすぐ斬新。それを超えるためには具体的に何が必要なのかを模索するところからはじめました」と開発担当は語る。

まずはボディの薄さ。並木も注目したこの点をプラスチックで再現するのが一番の難関であることが予想された。というのも、ボディ側面の樹脂の肉厚は1.3mmが必要とされている中で、例えば厚さ1cmのフラットサイドクランクを作る時、ボディの肉厚は2.6mm、空洞部分は7.4mmになる。これだと、十分な空気容量を得ることができない。加えて、薄い肉厚のボディにすると指でつまんだときに「ベコベコ」してしまう。これらの課題を克服するために、4つの要素を見出した。



ボディの厚さは10.4mmを実現。6cmクラスのフラットサイドクランクにおいて、10mm前後のボディ幅はHPFクランクにおいてほかに見当たらない

ベークを超えるリップを採用

まずはリップ。ベークを超えるために4～

5種類のリップを見つけたが、その中でも強度と透明感という点でガラスエポキシ（ガラス繊維にエポキシ樹脂をしみこませ、熱硬化処理を施して板状にしたもの）を採用。通称ガラエポと呼ばれ、強度が高いことはもちろん、弾性もある。しかも厚さ0.6mmと、当時では世界最薄のリップを実現。さらに、ABS樹脂のボディにガラエポリップを搭載したのは、O.S.P.が世界初だった（※すべてにおいてリップは薄ければいいというわけではない。シャロークランクにおいて、薄いリップは有利に動く）。

ハニカムボディの誕生

今でこそ、さまざまなO.S.P.ルアーに採用されているハニカムボディ（PAT.）だが、実はHPFクランクが最初だった。

「今でも覚えているのですが、出先から事務所に戻ってきた並木さんが開口一番『ハニカムボディはどうだ？』って。ハニカムリップで補強して肉を薄くする方法だと説明されました。調べたら船舶や飛行機などで軽量化と強度を両立する技術、と書かれてあって、それが果たしてルアーで通用するかどうか、そもそも実現可能なか。金型のコストはどれぐらいかかるのかなど、不安や懸念材料はたくさんありました」

効果は未知数。しかし工場側から不可能ではないという回答を得たため、ハニカムボディの開発をスタート。さまざまなテストの結果から、耐熱性の高い数種類の樹脂ペレットをブレンドすることで、理想の強度に行き着いた。ボディの厚みを小さく、それでいて完全フラット。なおかつ軽量で強度も申し分ない。これら条件をすべて満たすもの、それがハニカムボディの誕生につながったのだ。

重心移動システムの搭載

ウッド製フラットサイドクランクの弱点は飛距離で、克服するためには重心移動が不可欠。これは並木が最初から決めていたことだった。しかし単純に飛距離を生むための重心移動では、泳ぎが伴わない。ウエイトボールをひとつしか使わなかった場合、着水した時点で尻下がりになってしまい、泳ぎ出しが悪くなる。そこで着水姿勢を少しでも水平に近づけるためには、フロント側に固定ウエイトが1つと移動ウエイトが1つの、2ウエイトが必要になる。これは重心移動の基本だが、一方で泳がせた時は1ウエイトのほうが重心が一点集中するので、レスポンスが上がる。この、相反する要素をひとつにしたいという並木の強い意

向から生まれたのが、ホールインワンウエイトシステム（PAT.）だ。

φ6.5mmの大型タングステンウエイトが、飛行時には最後尾に移動。しかし着水後、スイミング態勢に入るとこのタングステンウエイトが腹側の固定ウエイト部（U字ウエイトの中）へと移動し、重心が一点に集中。これによって飛距離だけでなく、レスポンスの高い泳ぎも実現。同時に、ウッド製にはない（一部ローカルクランクにはあるが）サウンド（ラトル音）の発生も可能にした。



上はHPFクランクの内部構造。重心移動ウエイトが、固定ウエイト（U字ウエイト）の中に入っていることがわかる。これがホールインワンウエイトシステムだ。下はHPFクランクSPEC2の内部構造

個体差を生まない精度の高さ

ウッド製クランクは素材が自然材料ゆえ、ボディの左右で重量が異なったり、リップやアイ、オモリの位置など、さまざまな部分で誤差が生じる。これが個体差につながるのだが、プラスチック製ではその誤差を最小限にとどめることに成功した。

0.6mmの極薄リップやハニカムボディ、そしてホールインワンシステムなど、はじめての機構を搭載したため、テストにはかなりの時間を費やした。ハニカムボディの金型やU字ウエイトなどの完成度を高めるために、コストもかけた。こうして世に送り出されたのがHPFクランクである。

そしてその1年後には、固定ウエイトのHPFクランクSPEC2をリリース。重心移動のノーマルモデルに比べて、飛距離が落ちるのは仕方がない。しかしできるだけその落ち幅を最小限にとどめるために、ウエイトの位置を見直し設定。また、モノに当たったときに重心移動であればウエイトがボディ内で移動するため、その反動で飛んでしまう（モノから離れてしまう）が、SPEC2ではストラクチャーを、なめるようにトレースすることが可能。ノーマルはオープンウォーターで、飛距離とラトル（ウエイトボールが当たる音）でバスを誘う。ストラクチャーまわりではSPEC2といった使い分けをしてみてもいいだろう。